

既設治山ダムを活用した流木捕捉工の開発

1. ねらい

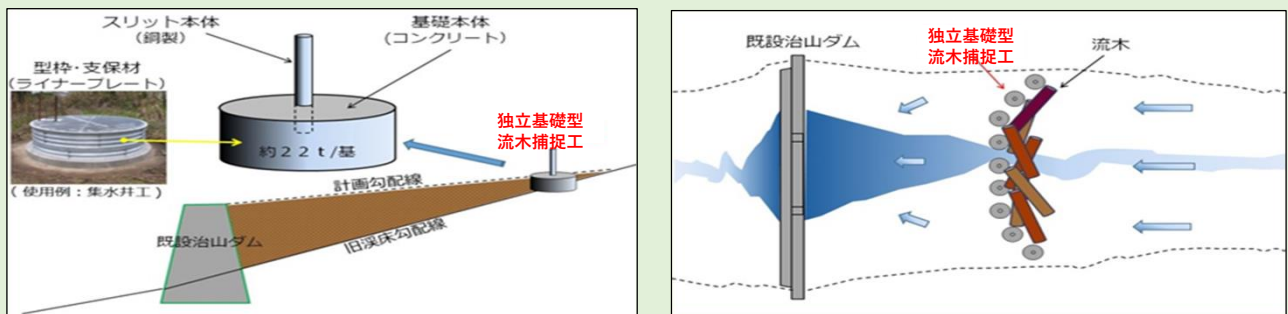
平成29年九州北部豪雨による甚大な流木災害等を受け、より一層の流木対策を推進するため、既設治山ダムを有効活用する「独立基礎型流木捕捉工」を考案しました。

2. 概要

主な構造は、鋼管1本とそれを立て込む独立したコンクリート製の基礎を1基とすることが特徴となっており、既設ダムの上流側へ横一列に設置することで流木を捕捉し、下流への流出を防ぎます。

また、1基ごとに独立していることから、流木を受け止める銅管部分が破損等した場合、鋼管のみを抜き取りのうえ再設置が可能なことから、経済性・施工性に大きなメリットがあります。

縦断及び平面イメージ



3. 成果

管内の4箇所試験施工しており、そのうち東又谷(富山署管内)では、令和4年8月の降雨により発生した流木の捕捉が確認できました。

また、試験段階では、同等規模の従来型流木捕捉式治山ダム(新設)と比較し、設置費で概ね25%減、施工時間で概ね75%減となるなど、経済性・施工性において成果を示すことができました。



設置状況



流木捕捉の状況

4. 問い合わせ先

「調査・計画」、「設計・施工」ガイドライン公表ページURL
<https://www.rinya.maff.go.jp/chubu/chisan/guideline.html>

治山課 電話026-236-2640